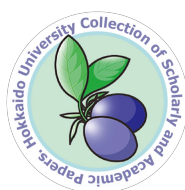




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	プロジェクトの概要
Author(s)	池ノ上, 真一
Relation	尾道型デスティネーション・マネジメントってなに? : 多様な地域遺産を生かす観光まちづくり戦略 = What is Onomichi type destination management? : Strategy of tourism for social Innovation using heritage diversity
Citation	CATS 叢書, 10, 59-71
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61308
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS10_10ikenoue.pdf



プロジェクトの概要

池ノ上 真一

北海道教育大学函館校講師

1. プロジェクトの基本的な考え方

(1) 本事業の主旨

本プロジェクトは，広島県が「魅力ある観光地づくり事業」として，中長期を見据えた観光客の継続的な来訪を図るため，各地域が有する観光資源の価値を高めるための戦略づくりを進めることを目的に実施したものである。広島県事業における主な目的としては，以下の 2 つである。

- イ) 持続可能な観光のための戦略策定モデルの構築
- ロ) ブランド価値（付加価値）向上のための指針の提示

対象地域として，観光資源の磨き上げによる観光地としての魅力の更なる向上を行うモデルケースとして，尾道市，宮島，三次・庄原を含む備北エリアの 3 カ所が選ばれている。尾道市は，2.1(2)プロジェクト実施上の基本的な考え方にて詳しく述べるが，歴史文化資源を生かした観光のモデルケースであり，広島県内における観光の第一目的地となる地域という理由で選ばれている。また備北エリアについては，今年度（平成 26 年度）末に尾道松江線が開通になることを鑑みて，エリア周遊の促進等を戦略的に考えることを目的として選ばれている。ここでいう観光資源とは，観光客を呼び込むための有形，無形にかかわらずない地域を構成する要素のことを指している。

本プロジェクトでは，その 3 つの選定地のひとつである尾道市を対象とし，観光資源の持続的な価値向上を目的とした観光戦略を策定することを目的とした。その際，尾道市において民間事業者や NPO といった民間や市民活動が盛んに行われ，地域づくりをリードしている状況から，広く市民の参画のもとで進めることとした。観光関係機関，宿泊業，飲食業，旅行業といった従来の観光関係者だけに留まらず，市民，NPO，民間事業者，行政，専門家などが，セクター・業種・専門性・組織・社会的立場といった様々な壁を越え，観光をキーワードに，その触媒性を活かすことで互いの活動目標や主張を尊重した対話を実現し，共通性の発見，独自性の組み合わせ等をとおして協働の仕組みを共創する「セッション」方式によるワークショップをとおして実施した。

(2)「観光×まちづくり」～気付き・仕掛け・仕組みから地域を捉える

尾道市では、「まちづくりの基本的方向、およびまちづくりの基本戦略（尾道市総合計画基本構想（2006～2016））」において、新たな芸術・文化や産業の創出につながる交流の拡大、「地域の歴史に育まれた芸術・文化」を活かす、「瀬戸内の十字路に広がる活力・個性」を活かすと謳っている。このように歴史的に交流による実現してきた地域の発展を、引き続き尾道の個性を活かすことで推し進めることを目標としている。

そこで本プロジェクトにおいては、「まちづくりの概念」を観光に関連する取り組みに当てはめて考えるという手法を採用することで、観光振興を行うことで結果としてまちづくりに資する取り組みとなるという仮説を前提とした。

そこで、地域において人の暮らしや社会が形成されるまちづくり過程を、つぎの「気付き」、「仕掛け」、「仕組み」という 3 段階の枠組みで捉えた。まず、まちづくりにおいて、その方策を考える上での前提条件であり、取り組みの資源となる地域を構成する要素(material)をいかに捉えるかということが出発点となることから、この要素を捉える段階について「気付き」とした。つぎに、その要素をいかに組み合わせるかを模索(attempt)する中で、結果として持続的な暮らしを成り立たせる「仕組み(mechanism)」を構築することが、まちづくりの最終目標となる。その組み合わせの模索の段階について「仕掛け」とした。すなわち、メカニズム（仕組み）として持続的に稼働する状態を一定の目的とし、本プロジェクトでは、以上の「気付き」、「仕掛け」、「仕組み」のまちづくり過程を観光振興の取り組みに当てはめて分析することをおし、観光戦略を検討することとした。

図 1 に示したとおり、気付き、仕掛け、仕組みには、順に連続性があり、また仕組みによって成立する暮らしの中で、新たな地域の構成要素（material）が創造され、それへの気付きが新たな観光振興の起点となるという、循環的な構造で捉えられるとした。そして本プロジェクトにおいては、この「仕掛け」の段階こそが観光戦略によって取り組むべき事項であるという観点から、とくに着目した。

従来の尾道ではこの仕掛けがいかなる状況になっており、そしてどのようなことが地域にとって理想的であるのか、それを実現するための課題を発見することが、本プロジェクトのもっとも主要な目的と言える。その際に用いる指標は 2 つあると言えよう。ひとつは、図 1 で示した横軸方向に関して、前述した気付き・仕掛け・仕組みの連続性から読み取る持続性である。もうひとつについては、前提として、それぞれの取り組みの段階における私益性、あるいは公益性を捉える指標を設定し、図 1 においては縦軸で表現した。そして尾道における取り組みについて、私益性と公益性がバランス良く行われていることで、地域において多様な価値を尊重する活動の展開が実現するとし、縦軸には多様性を捉える指標を設定した。

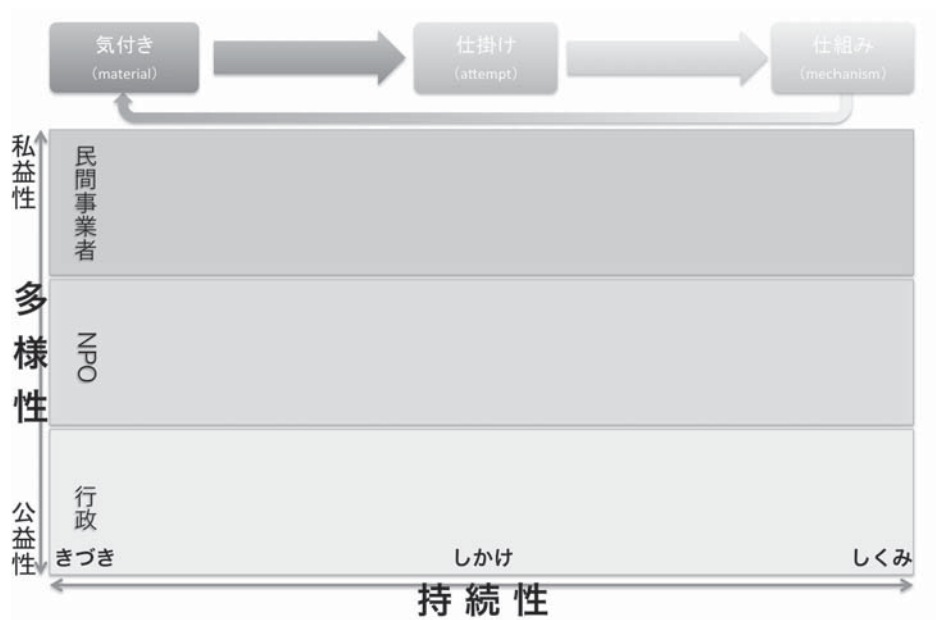


図1 「尾道」の観光に関する取り組みを捉える枠組み

2. プロジェクト実施の前提条件

(1) 広島県の事業における位置づけ

広島県では、2013（平成 25）年度にひろしま観光立県推進基本条例に基づき、「ひろしま観光立県推進基本計画」（計画期間：平成 25 年度～29 年度）が策定されている。計画のねらいとしては、県・市町・関係団体等による目標と課題の共有し、観光を、成長を支える産業の一つと位置づけ、地域の発展を意識したビジョンを提示することとしている。また平成 10 年以降、人口減少が続く県が抱える課題、あるいは一人あたりの旅行回数等の減少が続いている（観光庁「旅行・観光消費動向調査」による）という状況の変化、さらには、尾道松江線・東広島呉道路の開通、九州新幹線の開業、航空ネットワークの充実といった観光インフラの整備といった社会情勢の変化への対応が必要であるという前提のもとに策定されている。

「ひろしま観光立県推進基本計画」が掲げる目標としては、平成 24 年の値を基準として、総観光客数を 5,893 万人から 6,100 万人へ、外国人観光客数を 68 万人から 90 万人へ、宿泊客数を 731 万人から 770 万人へ、来訪者の満足度を 50.5%から 55%へとしている。そのために重点的に取り組む施策としては、総観光客数を増加させるための県内観光素材の集客力強化対策、県・市町・事業者の協働により集客力のある魅力的な観光資源の育成および周遊地点の増加を図り、魅力ある観光地づくりに重点を置くこと、そして県民

が一体となったおもてなしの充実への取り組みにより、来訪者の満足度を高め、再訪者の増加を図ることを掲げている。以上から本プロジェクトは、広島県観光地価値向上戦略策定事業の一事例地区として実施されたものである。主旨、対象地区の選定については、前述したとおりである。

また本プロジェクトにおいては、もうひとつの広島県の取り組みである「ひろしま」ブランドの価値向上に向けた取組方針とも歩調を合わせて取り組んだ。「ひろしま」ブランドとは、「広島県の魅力ある観光地、特産品、歴史や文化、自然、産業など、数多くの地域資産から連想されるイメージの総体」と定義されている。取り組みの目的としては、「「ひろしま」の国内外での認知・評価を高めることにより、魅力ある地域として「選ばれる」ようになること、地域のイメージアップとの相乗効果により、県内の地域資産の「付加価値」を高め、持続的な「地域経済の活性化」につなげること、以上を通じ、ひろしまに生まれ、育ち、住み、働く人々に、地域の良さを再認識してもらい、「地域に対する愛着・誇り」を高めること」と謳われている。

本プロジェクトにおいて、以上の二つの取り組みと整合性を取り、実施することが前提条件のひとつである。

(2) 尾道市における事業の位置づけ

本プロジェクトを尾道市にて実施するにあたり、「尾道総合計画」を上位計画と位置づけ、とくに目標とする都市像として掲げられている、「1. 個性をみがくまち（交流促進・交流基盤・産業）、2. 人が輝くまち（芸術・文化・景観・環境・協働・教育）、3. 安らぎのあるまち（安全・安心・生活基盤・健康福祉）」を共有することとした。さらに、まちづくりの基本戦略として謳っている「地域の歴史に育まれた芸術・文化」を活かす、「瀬戸内の十字路に広がる活力・個性」を活かすに沿った取り組みとすることとした。

また、その具体の施策である「尾道市歴史文化基本構想」、それにもとづき策定された「尾道市歴史的風致維持向上計画」、さらには現在導入に向けて準備が進められている「尾道市民遺産制度」を、前述の「気付き」の段階に相当する主要な取り組みとして位置づけることとした。

以上が本プロジェクトの実施において、関連した取り組みや計画であり、これらとの連携、あるいは整合をとることが前提条件であった。

(3) 対象地区の設定

対象地区については、前述したとおり、歴史文化基本構想との連携を図るため、当該構想における歴史文化保存活用区域のひとつである「尾道・古寺と港町の歴史文化保存活用区域」である尾道の市街地エリアと向島北側エリアを設定した。当該地区は、尾道水道を挟み位置する景観的なまとまりを有する区域として観光の目的地としても認識が容易であると考えられる。本プロジェクトでは当該地区を、「尾道」と表記することとした。



図2 当該事業の対象地区「尾道」：尾道・向島歴史的風致地区（重点区域）

3. 戦略策定プロセスとその考え方

（1）戦略策定の考え方

本プロジェクトにおいて、観光とはゲスト（観光客）とホスト（地域）との異文化交流であると捉え、それぞれからの観点から「尾道」に関連する環境分析を行い、地域資産の価値を捉え、描いた将来像を継続的に達成しうる整合的な施策群を策定することで、その活用の仕組みを構築することを目的とした。

これは、戦争や企業経営において用いられてきた戦略策定という計画手法について、波頭亮（1995）が「競争優位性を活用して、定められた目的を継続的に達成し得る整合的な施策群のまとめ」と整理したものを引用したものである。本プロジェクトは、地域づくりの促進における戦略であることから、「競争優位性」については、「地域資産の価値」と置き換え、前述した「観光×まちづくり」の捉える段階である気付き、仕掛け、仕組みという一連の流れを進めることを戦略策定の目的とした。

また本プロジェクトについては、広島県および尾道市ともに、策定した戦略に基づいた施策を平成 27 年度事業として予算編成していく予定のため、実現性が高く、具体的な戦術への示唆についても考慮する必要がある。

(2) 戦略策定の手順

戦略策定の手順としては、まずは「尾道」の内部・外部環境の分析に関して、北海道大学観光学高等研究センターが、広島県や尾道市の関係各所の協力を得ながら、「尾道」の気付き：文化遺産「尾道」の源流と今（第Ⅱ編 3 章）、「尾道」の仕掛け：観光の現状と課題（第Ⅱ編 4 章）、「尾道」の仕組み：暮らしの現状と課題（第Ⅱ編 5 章）、「尾道」における価値創造の萌芽（第Ⅱ編 6 章）の観点から調査を行った。

つぎに、上述の内部・外部環境の分析により得られたデータをもとに、「尾道」に拘わる多様な主体とワークショップを実施した。その形式として、フューチャーセッションという、多様なセクター・業種・専門性・組織・社会的立場といった様々な壁を越え、互いの価値観を尊重し対話を実現することで、未来の知的資本を生み出すという方式を採用した。

なぜならば、近年の「尾道」では、とくに地域の魅力に気付いた若者や民間企業が、様々な活動を各所で興している。その動きを活かし、地域全体に拡げるためには、彼らのもつ多様な価値観、発想力、行動力、経験等を顕在化し、さらには協働することによって、「尾道」の地域資産の価値を高める新たな仕組みを共創することが可能となると想定したからである。

そこで本プロジェクトにおける取り組みについては、「尾道観光創造セッション（以下、セッションとする）」と呼んだ。ここではとくに、市民、NPO、民間事業者、行政、専門家などが参画し、価値の尊重と未来志向の精神にもとづき、「尾道」の観光に関連した考え方や実情、そして新たな提案等を出し合い、意見交換をするといった対話をとおして、共通性、あるいは独自性の発見、さらには新たな協働の可能性と課題の明確化を行うことを目的とした。セッションのファシリテートについては、北海道大学観光学高等研究センター、および尾道市役所がチームとして担当した。また、そのファシリテート・チームに広島県庁を含め、本プロジェクトの事務局とし、セッションの企画、記録、成果の分析と振り返り、戦略策定に関する意見交換を担当した。

以上をとおし、最終的には事業主である広島県、対象地域である尾道市の確認のもと、北海道大学観光学高等研究センターが、中間まとめの作成、戦略文書の作成を行った。また、本プロジェクトを県内他地区におけるモデルケースとするため、運営計画の明確化、戦略の進捗管理のためのカルテの作成（効果測定に関する指標の提案）、他地域（瀬戸田地区等）展開策の検討についても、北海道大学観光学高等研究センターが行った。

【資料：実施プロジェクトの概要】

(1) 実施主体と役割

ワークショップメンバー

【市民・民間事業者・行政】

- ・ 石原 尚味（尾道市観光協会）
- ・ 出原 昌直（(株)ディスカバーリンクセとうち 代表取締役）
- ・ 井上 善文（(株)ディスカバーリンクセとうち 広報責任者）
- ・ 佐藤 彰洋（NPOおのみち街づくりラボ 代表理事）
- ・ 木梨 和哉（尾道市都市部まちづくり推進課まちづくり推進係 主任）
- ・ 寺岡 靖治（尾道国際ホテル 支配人）
- ・ 豊田 雅子（NPO尾道空き家再生プロジェクト 代表理事）
- ・ 永井 真介（ネコノテパン 代表）
- ・ 林 良司（尾道学研究会 事務局長）
- ・ 前川 佳洋（尾道飲食組合 副組合長）
- ・ 政岡 雅規（尾道市政策企画課共同推進係 係長）
- ・ 村上 博郁（NPOまちづくりプロジェクトiD尾道 代表理事）

【事務局】

- ・ 北海道大学観光学高等研究センターチーム
 - ① プロジェクト・リーダー：
 - 石森 秀三（北海道大学観光学高等研究センター 特別招聘教授）
 - ② 監修等：
 - 西山 徳明（北海道大学観光学高等研究センター センター長・教授）
 - 山村 高淑（北海道大学観光学高等研究センター 教授）
 - ③ プロジェクト遂行：
 - 池ノ上 真一（北海道教育大学国際地域学科 講師）
 - プロジェクト・マネジメント，調査（とくに仕組み），WS実施
 - 花岡 拓郎（北海道大学観光学高等研究センター 特任准教授）
 - 調査（とくに市民遺産制度等の気付き），WS実施
 - 石黒 侑介（北海道大学観光学高等研究センター 特任准教授）
 - 調査（とくに仕掛け（インバウンド，DMO等）），WS実施
- ・ 尾道市
 - 山根 広史（尾道市観光課 課長）
 - 新宅 康生（尾道市観光課 課長補佐）
 - 向山 成明（尾道市教育委員会教育総務部文化振興課 課長兼主幹）
 - 西井 亨（尾道市教育委員会教育総務部文化振興課 主事兼学芸員）
- ・ 広島県
 - ① 商工労働局観光課
 - 商工労働局ひろしまブランド推進課

(2) ワークショップ「尾道観光創造セッション」等の実施実績

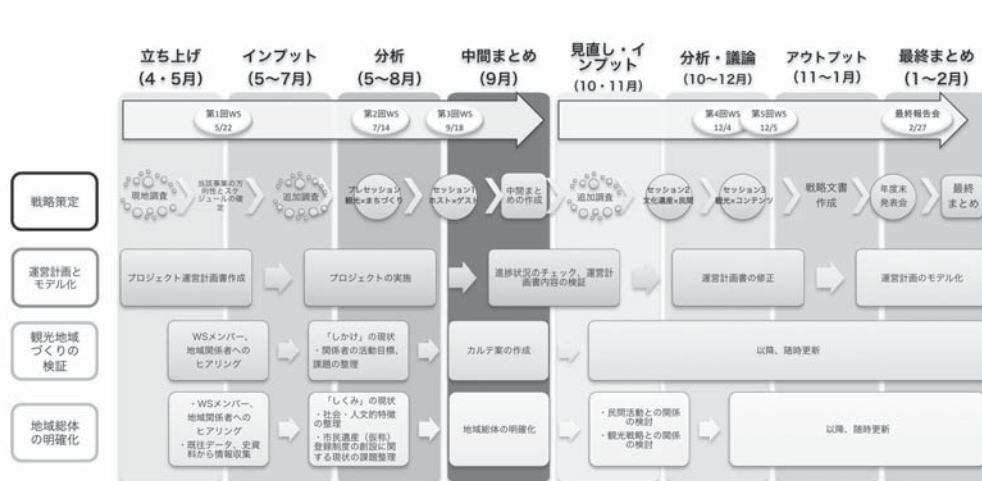


図3 「尾道観光創造セッション」等の当該事業の流れ

イ) 事務局作戦会議

- 日時：2014年4月16日 17:00～19:00
- 場所：尾道市役所3階第5会議室
- 参加者：
 - 北海道大学観光学高等研究センター
 - 石森 秀三（特別招聘教授），西山 徳明（センター長・教授），池ノ上 真一（北海道教育大学 講師），花岡 拓郎（特任准教授），石黒 侑介（特任准教授）
 - 尾道市産業部観光課
 - 山根 広史（課長），新宅 康生（課長補佐兼観光振興係長），安原 常雄（主事）
 - 尾道市教育委員会文化振興課
 - 向山 成明（課長），津川 一芳（課長補佐兼文化財係長），西井 亨（主任）
 - 広島県商工労働局ひろしまブランド推進課
 - 柴田 勉（課長），亀田 浩司（主査），三原 恵子（主任）
 - 広島県商工労働局観光課
 - 岡崎 泰充（課長），向久保 亨（政策監），今井 雅敏（参事），山本 栄典（主幹）
- 概要：
 - ▽ 現況説明
 - ・ 県観光課：本事業の趣旨等について
 - ・ 県ひろしまブランド推進課：取組方針等について
 - ・ 市観光課：H26年度の取組について
 - ・ 市教育委員会文化振興課：H26年度の歴史的風致維持事業について
 - ▽ 作戦会議（北大チームにて進行）
 - ・ 尾道の魅力等について（北大チームから意見等）
 - ・ 戦略の方向性等について

▽第1回ワークショップについて（北大チームにて進行）

- ・日程（5月22日）について
- ・議題及び参加者について

ロ) 【第1回ワークショップ】プロジェクト企画会議

- 日時：2014年5月22日13:30~16:30

- 場所：尾道市公会堂別館

- 参加者：

北海道大学観光学高等研究センター

石森 秀三（特別招聘教授）、西山 徳明（センター長・教授）、池ノ上 真一（北海道教育大学 講師）、花岡 拓郎（特任准教授）

尾道市産業部観光課

山根 広史（課長）、新宅 康生（課長補佐兼観光振興係長）

尾道市教育委員会文化振興課

向山 成明（課長）、津川 一芳（課長補佐兼文化財係長）、西井 亨（主任）

広島県商工労働局ひろしまブランド推進課

三原 恵子（主任）

広島県商工労働局観光課

岡崎 泰充（課長）、向久保 亨（政策監）、今井 雅敏（参事）、山本 栄典（主幹）、白井 保美（主任）

- 概要：

▽ WS運営計画の確認【導入】

- ・当該WSの目標共有、そこへ向けたスケジュールの確認

▽ ヒアリング調査報告【課題発見】

- ・市行政および民間の活動団体の現状や考え方について、花岡先生（とくに「データバンク」と「しくみ」あるいは「しかけ」との関係について）、池ノ上（とくに「しかけ」と「データバンク」あるいは「しくみ」との関係について）が他事例等も交えながら整理。

▽ フリーディスカッション【課題の共有】

- ・「観光地域づくりの3大要素」の観点から改めて現状の確認
- ・課題についてフリーディスカッション

→課題どおしの関係を分析しながら、通底する課題（複数？）を発見、WSにて共有する

▽ 戦略目標の絞り込み、方策案のアイデアだし【拡散と収束】

共有した課題をもとに、選択と集中を基本とし、戦略目標の絞り込み、明確化。
また、そのための方策アイデアについてブレーンストーミングを実施。

ハ) 【第2回ワークショップ】事務局会議

- 日時：2014年7月14日
- 場所：尾道市公会堂別館22号室
- 参加者：
 - 北海道大学観光学高等研究センター
 - 石森 秀三（特別招聘教授）、池ノ上 真一（北海道教育大学 講師）、花岡 拓郎（特任准教授）、石黒 侑介（特任准教授）、北島 直樹（研究生）
 - 尾道市産業部観光課
 - 山根 広史（課長）、新宅 康生（課長補佐兼観光振興係長）
 - 尾道市教育委員会文化振興課
 - 向山 成明（課長）、津川 一芳（課長補佐兼文化財係長）、西井 亨（主任）
 - 広島県商工労働局ひろしまブランド推進課
 - 亀田 浩司（主査）、三原 恵子（主任）
 - 広島県商工労働局観光課
 - 今井 雅敏（参事）、山本 栄典（主幹）
- 概要：
 - ▽ プレ尾道観光創造セッションの実施に関する事前打ち合わせ
 - ▽ 調査の進捗確認
 - ▽ 今後の進め方およびスケジュールの確認

ニ) 【第3回ワークショップ】プレ尾道観光創造セッション「まちづくり×観光」

- 日時：2014年7月14日
- 場所：尾道市公会堂別館22号室
- テーマ：「尾道」に必要な観光戦略とは
- 参加者・役割：
 - 【プレゼンター（まちづくり）】
 - 政岡 雅規（尾道市政策企画課協働推進係 係長）
 - 木梨 和哉（尾道市まちづくり推進課 主任）
 - 豊田 雅子（NPO 尾道空き家再生プロジェクト 代表理事）
 - 村上 博郁（NPO まちづくりプロジェクト iD 代表理事）
 - 【プレゼンター（観光）】
 - 石原 尚味（尾道観光協会）
 - 寺岡 靖治（尾道国際ホテル 支配人）
 - 前川 佳洋（尾道飲食組合 副組合長）
 - 【ファシリテート・チーム】
 - 北海道大学観光学高等研究センター
 - 石森 秀三（特別招聘教授）
 - 池ノ上 真一（北海道教育大学 講師）
 - 花岡 拓郎（特任准教授）
 - 石黒 侑介（特任准教授）
 - 尾道市産業部観光課
 - 山根 広史（課長）、新宅 康生（課長補佐兼観光振興係長）
 - 尾道市教育委員会文化振興課

向山 成明（課長），津川 一芳（課長補佐兼文化財係長），西井 亨（主任）
 広島県商工労働局ひろしまブランド推進課
 亀田 浩司（主査），三原 恵子（主任）
 広島県商工労働局観光課
 今井 雅敏（参事），山本 栄典（主幹）

- 概要：
 - ▽ 各プレイヤーによるプレゼンテーション：現状・活動理念・将来像・本事業への期待
 - ▽ 考え方の整理（池ノ上）
 - ▽ 意見交換
 - ▽ 中間まとめに向けた戦略概要と具体的方策について仮説的な提案

ホ) 【第4回ワークショップ】尾道観光創造セッション part1

- 日時：2014年9月18日18:45～21:00
- 場所：尾道市しまなみ交流館1階ギャラリースペース（尾道市東御所町10-1）
- テーマ：「尾道」の未来はどこにある？「ホスト」×「ゲスト」
- 参加者・役割：

【オープニングトーク】

「「尾道」を育てる観光創造とは」

石森 秀三（北海道大学観光学高等研究センター 特別招聘教授）

【セッション】

～ホスト（地域）の目～

林 良司（尾道学研究会事務局長）

石原 尚味（尾道市観光協会）

～ゲスト（観光客・尾道ファン・尾道への移住者等）の目～

井上 善文（(株)ディスカバーリンクせとうち 広報責任者）

永井 真介（ネコノテパン 代表）

【コメンテーター】

前川 佳洋，寺岡 靖治，木梨 和哉，政岡 雅規，豊田 雅子，村上 博郁

【ファシリテート・チーム】

池ノ上 真一（北海道教育大学講師）

新宅 康生（尾道市観光課課長補佐）

- 概要：
 - ▽ 次世代のためには～ヒト・モノ・カネ・情報のマッチング
 - ▽ ビジネス化（事業化）のためには～公民連携，地域連携等
 - ▽ 尾道ブランド（日本遺産等）を活かすには～持続可能な観光のために
 - ▽ 意見交換・まとめ

ヘ) 【第5回ワークショップ】尾道観光創造セッション part2

- 日時：2014年12月4日18:00～21:00
- 場所：尾道市公会堂別館40号室
- テーマ：「尾道」らしい民間連携とは？「文化遺産」×「民間」
- 参加者・役割：

【オープニングトーク】

「これからの観光まちづくりに求められる組織

～デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション（DMO）とは～」

石黒 侑介（北海道大学観光高等研究センター 特任准教授）

【話題提供】

①「尾道観光協会の概要について」 石原 尚味（尾道観光協会）

②「尾道市民遺産登録制度について」 西井 亨（尾道市教育委員会文化振興課 学芸員）

③「軒下マーケットプロジェクト」について 村上博郁（NPO 法人まちづくりプロジェクト iD 尾道 代表理事）

【セッション参加者】

池田 三夫（尾道市都市部まちづくり推進課まちづくり推進係 係長）

佐藤 彰洋（NPO 法人おのまち街づくりラボ 代表理事）

豊田 雅子（NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト 代表理事）

永井 真介（ネコノテパン 代表）

林 良司（尾道学研究会 事務局長）

前川 佳洋（尾道飲食組合 副組合長）

政岡 雅規（尾道市政策企画課協働推進係 係長）

【ファシリテート・チーム】

池ノ上 真一（北海道教育大学函館校国際地域学科地域協働専攻 講師）

石黒 侑介（北海道大学観光学高等研究センター 特任准教授）

新宅 康生（尾道市産業部観光課 課長補佐）

【アドバイザー】

西山 徳明（北海道大学観光学高等研究センター センター長・教授）

山村 高淑（北海道大学観光学高等研究センター 教授）

○ 概要：

▽ オープニングトーク「これからの観光まちづくりに求められる組織 デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション（DMO）とは」（石黒）

▽ 話題提供・意見交換

- ・ 「尾道観光協会の概要について」（石原）
- ・ 「尾道市民遺産登録制度について」（西井）
- ・ 「軒下マーケットプロジェクトについて」（村上）

▽ まとめ

ト) 【第6回ワークショップ】尾道観光創造セッション part3

○ 日時：2014 年 12 月 5 日

○ 場所：尾道市あなごのねどこ あくびカフェー

○ テーマ：地域ファンを増やすためのコンテンツ活用戦略

○ 参加者・役割：

【オープニングトーク】

「コンテンツ・ツーリズムの可能性と課題～物語の力が生む地域内外のコラボレーション」

山村 高淑（北海道大学観光学高等研究センター 教授）

【報告】

「みはらし亭の再生についての提案と現状」

豊田 雅子、新田 悟朗（NPO 法人空き家再生プロジェクト 代表理事、理事）

【セッション参加者】

石原 尚味（尾道観光協会）

木梨 和哉（尾道市まちづくり推進課 主任）

佐藤 彰洋（NPO 法人おのまち街づくりラボ 代表理事）

永井 真介（ネコノテパン 代表）

西井 亨（尾道市教育委員会文化振興課 学芸員）

前川 佳洋（尾道飲食組合 副組合長）

村上 博郁（NPO 法人まちづくりプロジェクト iD 尾道 代表理事）

【ファシリテート・チーム】

池ノ上 真一（北海道教育大学函館校国際地域学科地域協働専攻 講師）

山村 高淑（北海道大学観光学高等研究センター 教授）

新宅 康生（尾道市産業部観光課 課長補佐）

【アドバイザー】

石黒 侑介（北海道大学観光学高等研究センター 特任准教授）

増本 貴士（尾道大学キャリア演習室 特任教授）

○ 概要：

- ▽ オープニングトーク「コンテンツ・ツーリズムの可能性と課題～物語の力が生む地域内外のコラボレーション」（山村）
- ▽ 報告：「見晴亭の再生についての提案と現状」（豊田・新田）
- ▽ 意見交換・まとめ

チ) 最終報告会

- 日時：2015 年 2 月 27 日
- 場所：尾道市公会堂別館 22 号室
- テーマ：尾道の価値向上戦略とは？（報告会）
- 概要：

① 尾道の現状報告

- ・ 尾道歴史文化遺産の現状と計画
- ・ 目的地としての尾道の現状と必要な機能
- ・ 目指すべき将来像と課題

② 尾道の価値向上戦略

- ・ 目的地としてのマネジメント戦略
- ・ 歴史文化遺産を生かす戦略

【報告者】

北海道大学観光学高等研究センター

石森 秀三（特別招聘教授）、西山 徳明（センター長・教授）、池ノ上 真一（北海道教育大学 講師）、花岡 拓郎（特任准教授）

【進行】

池ノ上 真一（北海道教育大学 講師）